（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふりーすてっぷ			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年4月30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	17	（回答者数）	17
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年4月30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1．不登校支援に特化した専門的支援 不登校の背景や情緒面に配慮し、本人のペースを尊重した段階的支援を行っている。	1．本人の意思を尊重した自己決定支援 無理な登校促進ではなく、本人の気持ちやペースを尊重しながら、小さな成功体験を積み重ねられる支援を行っている。	1．進路・移行支援のさらなる強化 高校進学や卒業後の福祉サービス利用等、将来を見据えた支援体制の充実を図る。
2	2．医療・福祉・教育との連携体制 学校、訪問看護、医療機関、相談支援事業所等と連携し、多面的な支援体制を構築している。	2．個別支援と小集団支援の組み合わせ 児童の状態に応じ、安心できる個別支援と、段階的な集団活動を組み合わせた支援を実施している。	2．保護者支援機会の拡充 家族会や相談機会をさらに充実させ、保護者同士の交流や学びの機会を増やしていく。
3	3．保護者支援・家族支援の充実 保護者相談や家族会を通じて、不登校や発達特性に関する助言・情報共有を行い、家庭支援を重視している。	3．学校との丁寧な連携 学校との情報共有や出席状況の確認を行い、学校復帰や出席認定も見据えた支援を実施している。	3．地域連携と社会参加機会の充実 児童の状態に配慮しながら、社会体験や地域とのつながりの機会づくりを段階的に進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1．地域交流機会が限定的であること	不登校児童は対人不安や刺激への敏感さが強く、心理的安全性を優先した支援が中心となるため、地域交流機会が限定されやすい。	児童の状態に応じて、外出や社会体験活動等、無理のない形で社会参加の機会を定期的に実施する。
2	2．支援の専門性向上に向けた研修機会のさらなる充実	不登校支援や発達・精神面支援には専門性が求められ、支援ニーズが多様化している。	外部研修や事例検討、法人内研修を充実させ、支援スキルの向上と職員間の共通理解を深めていく。
3	3．進路・移行支援体制のさらなる充実	高校進学後や卒業後の支援ニーズが多様であり、進学・就労・福祉サービスへの移行支援がより重要となっている。	学校、相談支援事業所、就労系福祉サービス、医療等との連携を強化し、将来を見据えた支援体制をさらに整備していく。